

事務事業評価シート（評価対象年度：令和 2 年度）

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	子どもの権利に関する条例推進事業					②事業番号	7303
③事業類型	3. 政策推進事業			④開始年度	平成 24 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	○ 法令	○ 条例	規則	要綱	計画等	その他	法令等の名称: 子どもの権利条約 泉南市子どもの権利に関する条例
⑦実施手法	○ 直営	全部委託	一部委託	補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	9	項	1	目	5	細目 4
⑨担当部名	⑩担当課名			会計 一般会計			
教育部	人権国際教育課						

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 市民(泉南市に通勤、通学している人を含む)	① 市民	人
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
子どもの権利に関する条例を推進するために以下のような事業を行う。 ①子どもの権利条約、泉南市子どもの権利に関する条例の趣旨を伝えるための広報活動 ②子どもの権利条約、泉南市子どもの権利に関する条例の内容を理解するための研修会の実施 ③子どもの権利に関する条例を推進するための計画策定と計画に基づく実施 ④子どもの権利に関する条例の推進状況の検証	① せんなん子ども会議の実施回数	回
	② 子どもの権利に関する研修会の実施回数	回
	③ 子どもの権利条例委員会の開催回数	回
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
・子ども自身が自分が大切にされているという実感をもち、安心して泉南市で学んだり遊んだりすることができる。 ・子どもを取り巻くおとなが、子どもの権利を理解尊重し、子どもをまちづくりのパートナーとして位置づける意識を持つ。 ・行政および関係職員は子どもの権利を理解尊重し、子どもの最善の利益を考慮しながら事業展開を行う。	① せんなん子ども会議への参加経験者数	人
	② 子どもの権利に関する研修会への参加者数	人
	③	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
子どもの権利を尊重することは、すなわちすべての人の権利を尊重することにつながる。子ども施策についての理念を統一することが、子ども施策の推進につながる。	政策(章)	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち
	施策大(節)	1 市民すべてが平和を希求するとともに、互いの存在を尊重し信頼しあい、いかなる差別もなく、一人ひとりが大切にされる人権文化のまちをめざします
	施策中	1 基本的人権の尊重
	施策小	4 子どもの権利の擁護

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	市民	人	61,984	61,457	60,795	—	—	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	せんなん子ども会議の実施回数	回	12	11	10	11	11	成果指標②について、R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により研修会等が中止になったため、参加者数が減少している。
活動指標②	子どもの権利に関する研修会の実施回数	回	11	8	5	6	6	
活動指標③	子どもの権利条例委員会の開催回数	回	7	6	9	6	6	
成果指標①	せんなん子ども会議への参加経験者数	人	162	184	195	220	240	
成果指標②	子どもの権利に関する研修会への参加者数	人	315	108	55	100	100	
成果指標③								
事業費	投入人員							事業費などの推移における特殊要因などの説明
	正職員	人	0.55	0.50	0.55	0.55		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員×単価)	千円	4,242	3,816	4,198	4,198		R3年度は水ナス基金を活用し、泉南市子どもの権利条例制定10周年記念事業を行うため、事業費が増額となる。
	直接事業費	千円	694	620	726	2,154		
	総事業費	千円	4,936	4,436	4,924	6,352		
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	0	0	0	1,270		
	一般財源	千円	4,936	4,436	4,924	5,082		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	泉南市子どもの権利に関する条例が制定され、条例を推進することで、「子どもにやさしいまち」を目指しているため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	泉南市に子どもの権利に関する条例があるということを知っている人は、まだ多くない。広報等で発信し続けることで、認知度が上がり、子どもの権利に関する理解が深まると考えられる。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	R1年12月に行政評価第三者委員会による評価を受けて、活動指標①と成果指標①②を変更。

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[2]の評価

A

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[3]の評価

A

4. 総合評価

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞ ア ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止 ↓ ↓ ↓ (年まで) (年から) (年から)	
＜今後の展開方針＞ a. 重点化する(集中的なコスト投入) c. 効率化する(コストを下げる) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など	—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—